

# 第2回 大阪大学・チュラーロンコーン大学 日本文学国際研究交流集会 ー共有する眼差しー

日時: 2011年5月27日(金)午後1時00分より

会場: 待兼山会館2F会議室(大阪大学豊中キャンパス)

この研究交流集会は、タイのチュラーロンコーン大学と大阪大学の日本文学研究者が集い、大学院生を中心に、研究交流の場を持つというものです。多くのご参加をお待ちしております。

開会の辞 加藤 洋介(大阪大学大学院教授)

〈第1ブロック〉

アリナ テン(Alina Ten)「『後撰集』における七夕歌」(大阪大学大学院生)

ウィナイ・ジャーモンスリヤー(Winai Jamornsuriya)「世阿弥作における「待つ女」」(チュラーロンコーン大学大学院生)

ディスカッサント カナパット・ルーンピロム(Kanapat Ruenpirom)(大阪大学大学院生)

〈第2ブロック〉

ノッパクン・シーラーチャー(Nopphakun Sriracha)「謡曲「敦盛」の作品研究」(チュラーロンコーン大学大学院生)

ワナツサナン・スークトン(Wanatsanan Sookthon)「入水した女性のシテをもつ謡曲における作成手法」(チュラーロンコーン大学大学院生)

ディスカッサント 勢田 道生(大阪大学大学院助教)

〈第3ブロック〉

康 盛国(Kang Sung Kook)「雨森芳洲「少年行」と李白の詩」(大阪大学大学院生)

張 麗静(Zhang LiJing)「谷崎潤一郎『少将滋幹の母』の語りにおける虚構性—「不義」の正当化という視点から—」(大阪大学大学院生)

ディスカッサント 合山 林太郎(大阪大学大学院講師)

〈第4ブロック〉

田 泉(Tian Quan)「大江健三郎『死者の奢り』論—「僕」の孤独をめぐって—」(大阪大学大学院生)

アチャラー・ヘムワランクーン(Atchara Hemwarangkoon)「吉本ばなの作品における死と生命力」(チュラーロンコーン大学大学院生)

ディスカッサント モハammad・モインウッディン(Md Moinuddin)(大阪大学大学院生)

講評 ナムティップ・メータセート(Namthip Methasate)(チュラーロンコーン大学講師)

岩井 茂樹(チュラーロンコーン大学講師)

荒木 浩(国際日本文化研究センター教授)

海野 圭介(国文学研究資料館准教授)

金水 敏(大阪大学大学院教授)

橋本 順光(大阪大学大学院准教授)

中尾 薫(大阪大学大学院講師)

平松 秀樹(大阪大学非常勤講師・招へい研究員)

閉会の辞 アッタヤ・スワンラダー(Attaya Suwanrada)(チュラーロンコーン大学助教授)

総合司会 西尾 元伸(大阪大学大学院生)、丹下 暖子(大阪大学特任研究員)

アシスタント・コーディネーター 木下 美佳(大阪大学特任研究員)、莊 千慧(Chuang Chien-Hui)(大阪大学大学院生)、宮川 真弥(大阪大学大学院生)、坂之上 紗織(大阪大学大学院生)、藤崎 裕子(大阪大学大学院生)

主催: 大阪大学日本文学研究室・チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座

共催: 大阪大学文学研究科・国際交流基金・タイ国トヨタ自動車株式会社・大阪大学古代中世文学研究会

連絡先: 合山林太郎研究室(06-6850-5680 e-mail: goyama\*let.osaka-u.ac.jp \*を@に置き換えて下さい)